

高齢者の皆さん、忘れていませんか？

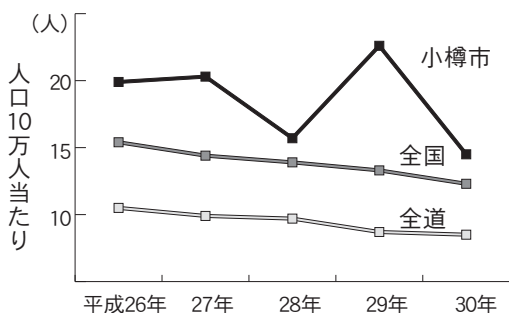
結核は昔の病気ではありません

結核は現在でも多くの方がかかる感染症で、特に高齢者は症状が出にくい^{りかん}ため、定期的に検診を受けることが大切です。今回は、結核の症状や罹患率^{りかん}のほか、結核から身を守る方法についてお知らせします。

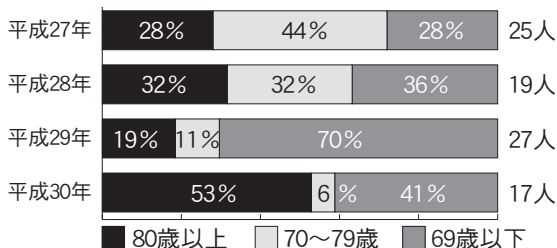
患者の約半数は高齢者

結核は昔の病気と思われがちですが、日本では平成30年に約1万6000人が新たに結核を発病し、約2200人

結核罹患率(新規結核患者数)



市内の新規結核患者数と年齢構成



※平成29年は市内医療機関での集団感染があったため、患者の年齢構成が例年の傾向と異なります。

が亡くなっています。本市でも毎年約20人の方が新たに発病しており、人口10万人当たりの罹患率は、全国や全道と比較して高い値となっています(左上のグラフ「結核罹患率」を参照)。

結核患者の半数以上は70歳以上の高齢者が占めており、特に80歳以上の患者の割合が高くなっています(左上のグラフ「市内の新規結核患者数と年齢構成」を参照)。これは、結核が流行していた時代に結核菌に感染した方が高齢者となり、免疫力の低下に伴って発病する方が多いためとされています。

免疫力の低下に注意

結核は、結核菌が混ざった飛沫^{ひまつ}が、せきやくしゃみと一緒に空気中に飛び散り、その菌を周りの人が直接吸い込むことによって感染します。そして、免疫力が弱まったときなどに菌が増えて発病します。

高齢者で注意が必要な症状

- 食欲が落ちた
- 微熱が続いている
- 体がだるい
- なんとなく元気が出ない
- 体重が減った



初期症状は、せきやたん、微熱など風邪の症状とよく似ており、良くなったり悪くなったりしながら症状が進行するのが特徴です。しかし、高齢者の場合は、免疫力や身体機能の低下から、発病して

結核から身を守るチェックポイント

- ☑ 1年に1回は胸部レントゲン検査を受ける
- ☑ 気になる症状が続いたら医療機関を受診する
重症化を防ぐには早期発見・早期治療が大切です。
- ☑ 日頃から免疫力を高める生活を送る
規則正しい生活・栄養バランスのよい食事・十分な睡眠・適度な運動を心掛けましょう。

も症状が出にくいため、注意が必要です。
結核から身を守るために

保健所では、結核患者の服薬支援や結核に関する健康講話を行っているほか、65歳以上の方を対象に胸部レントゲン検査による結核・肺がん検診(本誌16ページ・17ページを参照)を行っています。結核から身を守るために、症状がなくても定期的に検診を受けましょう。
◆お問い合わせは、保健所健康増進課 ☎ 3110、FAX 31469 へどうぞ。